

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡療育支援センターいちばん星新宮 児童発達支援新宮きらら園		
○保護者評価実施期間	R6年 9月 30日		～ R6年 10月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R6年 9月 30日		～ R6年 10月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児のことを、職員が一生懸命考え、その子に適切な支援を行っている。	朝のミーティングをその日きらら園の療育に入るスタッフがそろそろ時間に行い、細かい情報共有ができる。 個別支援会議も、対象の利用児に関わるスタッフが極力参加出来るような日時に行い、参加できないスタッフには、会議前後に意見を聞くようになっている。 月に1度の研修で、職員の知識が増えるように取り組んでいる。	パートスタッフや、兼任スタッフなど、その場にはいない職員とも情報共有できるように、ミーティング記録や、会議録、ラインなども更に活用していきたい。
2	子どもの様子をしっかりと保護者に伝えていることで、安心して利用児が通園できている。	連絡帳に、保護者の記載への返答、日々の様子(医療的なこと、活動への参加、食事量、排泄状況、午睡の有無)など、細かく記入している。 送迎時のフィードバックでも、利用児の日中の様子をしっかりとお伝えしている。	行事や面談、送迎時など、保護者と対面する機会を大事にし、行事などでは職員の人となりを知ってもらえるイベントを行う。
3	行事を行い、職員と、保護者、保護者同士、きょうだい児の交流の場を設けている。	クリスマス会では、人に見られる経験(ステージ発表)を設定し、利用児の成長を促すとともに、保護者、他のご家族にも利用児の成長と一緒に感じてもらえるようにしている。 行事では、利用児だけではなく、両親やきょうだい児も楽しんでもらえる企画を考える。	就労している保護者も多いため、極力早めにお知らせして、参加を促したい。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングなど、保護者を対象とした支援、あるいはきょうだい児を対象とした支援はできていない。	今年度は年長児も途中入園の一名であり、就学に向けた取り組みも行えなかった。 就労している保護者が多い中、平日に企画することのむずかしさもある。	来年度は、親子療育の頻度を増やしたり、就労している保護者が参加しやすい日程を検討する。 兄弟児へのイベントは、利用児家族の状況を考慮しながら検討する。
2	地域の園との交流は行っていない。 現在おほしさま園へ週1回交流している利用児が一名。(年度当初は2回行っていたが、おほしさま園の児童が増えたため、1回に減った)。	感染症が命取りになる利用児もあり、保護者のニーズも不明である。 利用児にとって、感染のリスクと比較しても地域の園との交流が必要であると判断することが難しい。	利用児の評価を踏まえて、必要であれば、保護者とも面談を行い、検討していく。
3	トイレや洗面など、環境的に利用児が使いにくいところがある。	オムルや補助便座などで、トイレは何とか経験させることができてはいるが、洗面は難しく、手洗いは利用児、介助者の身体的な負担を考え、ウェットティッシュで拭いている。	できれば、地域の園にあるような、トイレ、洗面への改装が望ましいが、難しい場合は、DIY等で工夫することも検討する。